

チャレンジする Someone NEWS

~挑戦者の履歴書

第38回

湯澤魁氏

(一般社団法人未来の準備室 理事・事務局長)

地域と若者との幸福な関係性をつくる

一般社団法人 洸楓座 代表理事 佐藤建吉

連載

「魁」は、さきがけ

今回は、このシリーズで最も若い人物を紹介する。彼の取り組みは、「魁」という名前のように、さきがけを歩んでおり、しかも足跡を残している。

その人物は、湯澤魁氏、26歳。1995年10月、札幌市で誕生した。父親の転勤のため3歳で広島市に、小2からは西宮市に、と引っ越が続き、そして中学からは中高一貫の名門、私立灘高に進学。高校1年になる春先に東日本大震災。当時は特別な感情はなかったが、同高校教師の現地でボランティア活動の話聞き、翌年3月には、宮城・福島の被災地で救援ボランティアに参加した。

これが、今日に至る彼の生き方である。「内陸性活動」の導火線に火が点いた。灘高の多くの生徒は、現場を棚上げした国、現場を棚上げした国

家論や国際論で悦に入り(浸り)やすい。しかし、現場に立てば意識は変わる。世界には、「二種類の人間がいる。現場を見て意識が変わる奴と変わらぬ奴だ」。湯澤は、前者の奴だった。

その後、生徒会に「東北合宿」を立ち上げ、夏休み・冬休み・春休みの度に宮城・福島の沿岸部を訪問。ボランティア活動を「EMANON」(エマノン)と称している。

EMANONは、高橋和希氏の命名であるという。この創設者である青砥和希氏の命名であるという。現在の同カフェは、8人

これは、青砥氏の体験でもあったはずだ。青砥氏がエライのは、そうして構想を、行政と相談して、市の予算で「コミュニティ・カフェEMANON」をつくらせたこと。

現在、同カフェは、8人での運営で、運営されている。高校生は入場無料・学割あり。電源・Wi-Fiも利用できる。

食、ドリンクがあり、食べ物の持ち込みもよい。読書も語りも出来る。若者男女問わず滞在可能だ。いまの時期には、クールシェアとしても利用できる。



流石に若々しい湯澤魁氏

「第三場」と「カフェEMANON」

湯澤氏は現在、一般社団法人「未来の準備室」の理事、事務局長の肩書をもつ。その現場は、前

「伴走」すること & その先にあるもの

湯澤氏は、たまたまEMANONの青砥代表と会って、面白い人だ、この人の下で働きたいと直感したという。

次のコメントは、湯澤氏へのインタビュー記事で述べている。「僕の場合代表の下で働きたいと思ったのが大きかったですね。白河が好きだから白河に来たというわけではなく、一緒に働きたいと感じた人が、地方への問題意識をしっかりと持っている人で、また白河で活動していたという感じ。地元だから愛着が原動力になりたりするのでしょけ、自分の場合はそうではないかったですね。」

高校生活には、「きょうも放課後、本町9番地に受け止めてくれる、ちょっと大人のあの人がいる状況」こそが、居心地がいい。「高校生びいき」は、これを地域の高校生に届けることでもある。

高校を卒業し白河を離れた学生や社会人たちが顔をだしてくれ、地元出身の大学生・社会人が、自ら白河で活動する動きも出てきている。

EMANONの「エフエクト」と課題

2021年に、エコモン利用若者OB・OGを中心に構成されたチームで実施した「白河若者会議2021」では、200人以上の来場者が、若者の声を届ける機会となった。

結果、住んでいる場所が「下町者」として終わってしまっている。再び学びを持ち帰ったり、本来主役を演じたいと共進進してサポートする。もう一つの意味合い(コンセプト)が、高校生のいきで、

EMANONは、市民を巻き込んだ活動でも楽しめるカフェ。

まなぶ STUDY

つづやく TWEET

EMANONは、市民を巻き込んだ活動でも楽しめるカフェ。

まなぶ STUDY

つづやく TWEET

「第三場」と「カフェEMANON」

湯澤氏は現在、一般社団法人「未来の準備室」の理事、事務局長の肩書をもつ。その現場は、前

これは、青砥氏の体験でもあったはずだ。青砥氏がエライのは、そうして構想を、行政と相談して、市の予算で「コミュニティ・カフェEMANON」をつくらせたこと。

現在、同カフェは、8人での運営で、運営されている。高校生は入場無料・学割あり。電源・Wi-Fiも利用できる。

食、ドリンクがあり、食べ物の持ち込みもよい。読書も語りも出来る。若者男女問わず滞在可能だ。いまの時期には、クールシェアとしても利用できる。

EMANONの「エフエクト」と課題

2021年に、エコモン利用若者OB・OGを中心に構成されたチームで実施した「白河若者会議2021」では、200人以上の来場者が、若者の声を届ける機会となった。

結果、住んでいる場所が「下町者」として終わってしまっている。再び学びを持ち帰ったり、本来主役を演じたいと共進進してサポートする。もう一つの意味合い(コンセプト)が、高校生のいきで、

EMANONの「エフエクト」と課題

2021年に、エコモン利用若者OB・OGを中心に構成されたチームで実施した「白河若者会議2021」では、200人以上の来場者が、若者の声を届ける機会となった。

結果、住んでいる場所が「下町者」として終わってしまっている。再び学びを持ち帰ったり、本来主役を演じたいと共進進してサポートする。もう一つの意味合い(コンセプト)が、高校生のいきで、

カフェ EMANON (エマノン)での談話シーン



広げた「まちの縁側」というプロジェクトに関わっているが、両者は似た地域共生社会を求めるものであるといえる。また子供を対象にした佐久地域でも応援プラットフォームのメンバーでもある。この日も、第3の居場所が重要視されている。関わりが深い。

SDGsの実践者としての若者と、暮らしの現場である地域がともに幸福な関係性をつくるチャレンジャーとして湯澤魁氏を紹介させて頂いた。

「第三場」と「カフェEMANON」

湯澤氏は現在、一般社団法人「未来の準備室」の理事、事務局長の肩書をもつ。その現場は、前

これは、青砥氏の体験でもあったはずだ。青砥氏がエライのは、そうして構想を、行政と相談して、市の予算で「コミュニティ・カフェEMANON」をつくらせたこと。

現在、同カフェは、8人での運営で、運営されている。高校生は入場無料・学割あり。電源・Wi-Fiも利用できる。

食、ドリンクがあり、食べ物の持ち込みもよい。読書も語りも出来る。若者男女問わず滞在可能だ。いまの時期には、クールシェアとしても利用できる。

EMANONの「エフエクト」と課題

2021年に、エコモン利用若者OB・OGを中心に構成されたチームで実施した「白河若者会議2021」では、200人以上の来場者が、若者の声を届ける機会となった。

結果、住んでいる場所が「下町者」として終わってしまっている。再び学びを持ち帰ったり、本来主役を演じたいと共進進してサポートする。もう一つの意味合い(コンセプト)が、高校生のいきで、

EMANONの「エフエクト」と課題

2021年に、エコモン利用若者OB・OGを中心に構成されたチームで実施した「白河若者会議2021」では、200人以上の来場者が、若者の声を届ける機会となった。

結果、住んでいる場所が「下町者」として終わってしまっている。再び学びを持ち帰ったり、本来主役を演じたいと共進進してサポートする。もう一つの意味合い(コンセプト)が、高校生のいきで、